

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	妖精の杜		
○保護者評価実施期間	令和 7年 2月 7日 ～ 令和 7年 2月 28日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19名	(回答者数) 16名
○従業者評価実施期間	令和 7年 2月 7日 ～ 令和 7年 2月 28日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 4月 21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・当事業所の所在地環境（近隣が町工場や空き家、駐車場に囲まれていること、さらに突き当りの場所ということで車や人の行き来が施設の前ではほとんどない場所）において、交通事故の危険性や騒音トラブルといった近隣問題は基本的に存在せず、近隣施設の理解もあり和太鼓活動や夏季の駐車場におけるプール活動など、出かけて行かなくともプライバシーに配慮しながら積極的に行える点。	・当事業所の基本理念でもある「安心して過ごせる場所」であること。子どもの権利条約に基づいた「子どもたちの最善の利益を保障する」ことを念頭において、OJTおよびOFFJT、職員会議や日々のミーティングにおいて、繰り返し繰り返し徹底して職員一人一人に意識を促しているが、どんなことよりもまずは「生命の安全」ということを最優先にしている。	・当事業所が開設して8年目（指定更新済み）を迎えており、これまでの活動を振り返った時に、やはり年間を通しての活動となるとどうしても活動内容においてパターン化してしまっている部分もあり活動内容の見直しを含め、今後はIT機器の活用も視野に入れて今の時代に則した支援内容と、これまで同様伝統的・文化的な活動内容と織り交ぜながら支援をしていく必要があると感じている。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・放課後等デイサービス事業所という施設の性質上、障害を持つ児童が通所しているということもあり、外部（放課後児童クラブや児童館など）との交流という点においては、個人情報や地域の理解・認識なども含め、事業所として積極的な姿勢といえないと感じている点である。	・このことに関しては、以前に保護者からの要望（個人情報：地域の中で利用児童が放課後等デイサービス事業所に通っていることを兄弟姉妹の同じ学校の子に知られたくない等）などもあり、社会資源の活用という点においては、どの地域のどの場所を選択していくことが良いのか、ということを考えていく必要がある。	・その一方で、地域との交流に関しては積極的に行っていくことや交流などを望んでいる保護者もいるので、利用児童にとって最善の利益という観点からも必要ではあると思っている。それぞれの保護者のニーズと、地域での交流活動などをどのように推し進めていくことが良いのか今後より検討していくことが必要であると考えている。